

湖西市監査委員公告

地方自治法第199条第9項の規定により監査の結果に関する報告を次のとおり決定したので、同項の規定により公表します。

令和8年3月30日

湖西市監査委員 土屋 隆裕
湖西市監査委員 佐原 佳美



監査の結果に関する報告の提出について

監査の結果に関する報告を次のとおり提出します。

令和7年度財務監査（後期監査）の結果に関する報告

第1 準拠した基準

この監査は、湖西市監査基準に準拠して実施しました。

第2 監査の種類

この監査は、湖西市監査基準第4条第4項の定期監査として行った同条第1項第3号の財務監査です。

第3 監査の対象

この監査は、別表第1に掲げる部課等の令和7年度の財務に関する事務で、次に掲げる会計の区分に応じ、それぞれ定めるものを監査の対象としました。

- (1) 公営企業会計 経営に係る事業の管理に関する事務のうち次に掲げるもの
 - ア 労務管理の事務
 - イ 調定、徴収、現金取扱い又は滞納整理の事務
 - ウ 切手等の保管管理の事務
 - エ 固定資産又は貯蔵品の管理事務
- (2) その他の会計
 - ア 調定、徴収、現金取扱い又は滞納整理の事務
 - イ 切手等の保管管理の事務
 - ウ 備品その他物品（消耗品及び医薬品を含みます。）の管理事務

第4 監査の着眼点

監査の主な着眼点は次に掲げるものとしました。

- (1) 法令に適合しているか。
- (2) 正確か。
- (3) 最少の経費で最大の効果を挙げるようにしているか。
- (4) 組織及び運営の合理化に努めているか。
- (5) 内部統制は有効に働いているか。（重大なミスが見過ごされていないか。）

第5 監査の主な実施内容

1 予備監査

事務局職員が、提出資料を通覧して異常事項や例外事項がないかを確認するとともに、地方公営企業の業務の状況を説明する書類の正確性を計算により確認しました。

2 監査委員監査

調定、徴収、現金取扱い及び滞納整理の事務、切手等の保管管理の事務並びに備品その他の物品の管理事務について実地で検証し確認しました。これらにより異常の有無を確認できなかった事項については、関係職員に質問し、回答又は説明を求めました。

なお、公営企業の経営状況については、年度別に対照させた数値を観察しその異同を通じて問題点の有無を確認しました。

第6 監査の実施場所及び日程

監査は、別表第2に掲げる場所及び日程により実施しました。

第7 監査の結果及び意見

1 監査の結果

第1から第6までの記載事項のとおり監査した限りにおいて、重要な点においては、法令に適合し、正確で、最少の経費で最大の効果を挙げるようにし、その組織及び運営の合理化に努めていることが認められましたが、別表3に掲げる改善すべき点があったので適切な措置を講じられたい。

2 意見

地方自治法第199条第10項の規定により本報告に添えて、次のとおり意見を提出する。

軽微な工事・物品購入等については、事務の効率化の観点からすでに他の地方公共団体で行われている『1者見積書（見積合わせ不要）とすることができる。』よう検討願いたい。

別表第1 (第3関係)

総務部	総務課、税務課
企画部	秘書広報課
環境部	環境課(脱炭素推進室も含む)、廃棄物対策課、上下水道課
健康福祉部	地域福祉課、健康増進課
こども未来部	こども政策課(いじめ防止対策準備室も含む)、こども未来課、 保育幼稚園課
市民安全部	市民課
産業部	産業振興課(モノづくり推進室を含む)
都市整備部	土木課
教育委員会	図書館
消防本部	予防課
市立湖西病院	

別表第2 (第6関係)

内 容		実施場所	実施日
実施通知			令和7年12月5日(金)
予備監査		監査委員事務局	令和7年12月26日(金)から 令和8年1月20日(火)まで
監査委員 監査	実査及び 質問	監査の対象の部課 等又は当該部課等 のある施設	令和8年1月21日(水)から
	分析的手続		令和8年2月26日(木)まで
講評及び弁明、意見等 の聴取		監査委員事務局	令和8年2月26日(木)
監査の結果に関する報 告決定		監査委員事務局	令和8年3月30日(月)

別表第3 (第7関係)

対 象 課	監 査 結 果
廃棄物対策課	<p>【車両の売払いについて】</p> <p>地方自治法施行令第167条の2第1項第1号を適用し、8者から見積書を徴し最も有利な価格で見積もりをした者と取引をしていたが、車両は財産(地方自治法第237条)に該当するため、50万円を超える金額は競争入札とすべき事案である。</p> <p>今後は、適正な事務を執行されたい。</p>

別記（第7関係）

○ 公営企業の経営状況

【注記】

- (1) 数値は、令和7年度以前の上半期分について表示しました。
- (2) 金額及び比率は表示数値のすぐ下の位の数値を四捨五入し、比率、金額の差及び比率の差（ポイントで表示しました。）は表示数値により計算しました。
- (3) 流動比率は、1年以内に現金化できる資産と支払わなければならない負債を比較するもので、短期（1年）の資金繰りを示す指標として、比率が高いほど資金繰りが順調であることを示します。理想比率は200%以上です。
- (4) 現金預金比率は、流動負債に対する現金預金の割合を示すもので、流動比率と同じく、短期の資金繰りを示す指標です。20%以上が理想値とされています。
- (5) 数値がないものは「-」で表示しました。

1 公共下水道事業（環境部上下水道課）

(1) 4月から9月までの職員の時間外勤務の状況（単位：人）

区 分	3年	4年	5年	6年	7年
1か月間の時間外勤務が100時間以上の職員の延べ人数	-	-	-	-	-
1か月間の時間外勤務が80時間を超えた職員の延べ人数	-	-	-	-	-
1か月間の時間外勤務が45時間を超えた職員の延べ人数	1	-	-	-	-
2か月間、3か月間、4か月間、5か月間又は6か月間の時間外勤務の1か月当たりの平均時間が80時間を超えた職員の延べ人数	-	-	-	-	-

1か月間の時間外勤務が45時間を超えた職員はいませんでした。

(2) 9月末日現在の収益的収支（税抜き）（単位：千円）

区 分	3年	4年	5年	6年	7年
下水道事業収益(a)	562,492	667,665	665,256	675,093	845,713
下水道事業費用(b)	219,130	209,982	213,925	200,889	524,895
純利益 (a-b)	343,362	457,683	451,331	474,204	320,818

下水道事業収益（税抜き）は845,713千円で、前年同期と比べ170,620千円の増収ですが、前年度以前の上半期報告は長期前受金戻入を算入していないため、実質的には、下水道使用料収入の減少と、他会計補助金の減額により、減収となります。

下水道事業費用（税抜き）は524,895千円で、前年同期と比べ324,006千円増収ですが、前年度以前の上半期報告は減価償却費を算入していないためです。実質的には、処理場及びポンプ場費の修繕費が増加したことによるものです。

損益では320,818千円の純利益を上げました。

令和7年度から下水道事業収益（税抜き）には長期前受金戻入を含んだ金額を、下水道事業費用は（税抜き）には減価償却費等を含む金額を表示しています。

(3) 9月末日現在の資本的収支（税抜き）（単位：千円）

区 分	3年	4年	5年	6年	7年
資本的収入 (a)	195,753	95,815	135,143	166,575	237,949
資本的支出 (b)	562,929	431,495	432,721	518,232	599,081
差引不足額 (a-b)	△ 367,176	△ 335,680	△ 297,578	△ 351,657	△ 361,132

資本的収入（税抜き）は、237,949千円で、前年同期に比べて71,374千円の増加しました。これは主に、国庫補助金と工事負担金が増加したことによるものです。

資本的支出（税抜き）は599,081千円で、前年同期に比べて80,849千円の増加です。これは主に、道路建設改良費の工事請負費が増加したことによるものです。

(4) 9月末日現在の収益的収支（税抜き）（単位：千円）

区 分	3年	4年	5年	6年	7年
流動資産 (千円：a)	298,173	369,911	491,348	393,428	520,853
現金預金(千円：b)	149,766	219,706	322,291	277,713	393,750
流動負債 (千円：c)	363,829	384,456	472,108	412,275	466,300
流動比率 (%:a/c×100)	82.0	96.2	104.1	95.4	111.7
現金預金比率 (%:b/c×100)	41.2	57.1	68.3	67.4	84.4

流動比率は111.7%で、前年同期より16.3ポイント上昇しました。現金預金比率は前年度同期より1.7ポイント上昇して84.4%です。

2 水道事業（環境部上下水道課）

(1) 4月から9月までの職員の時間外勤務の状況（単位：人）

区 分	3年	4年	5年	6年	7年
1か月間の時間外勤務が100時間以上の職員の延べ人数	-	-	-	-	-
1か月間の時間外勤務が80時間を超えた職員の延べ人数	-	-	-	-	-
1か月間の時間外勤務が45時間を超えた職員の延べ人数	9	5	9	3	9
2か月間、3か月間、4か月間、5か月間又は6か月間の時間外勤務の1か月当たりの平均時間が80時間を超えた職員の延べ人数	-	-	-	-	-

1か月間の時間外勤務が45時間を超えた職員の延べ人数は9人で、前年より6人増加しました。

なお、1か月間の時間外勤務が45時間を超えた職員の実人数は1人でした。

(2) 9月末日現在の収益的収支（税抜き）（単位：千円）

区 分	3年	4年	5年	6年	7年
水道事業収益 (a)	563,072	559,324	552,039	524,607	599,153
水道事業費用 (b)	465,785	477,062	471,793	261,919	495,199
純利益 (a-b)	97,287	82,262	80,246	262,688	103,954

水道事業収益（税抜き）は599,153千円で、前年同期と比べ74,546千円の増収ですが、前年度の上期決算報告においては、長期前受金戻入を算入していないため、実質的には、令和7年5月から水道料金の値上げを行ったことによるものです。

水道事業費用（税抜き）は495,199千円で、前年同期と比べ233,280千円増加ですが、前年度の上期決算報告においては減価償却費等を算入していないため、実質的には、受水費の増加によるものです。

損益では103,954千円の純利益を上げました。前年同期と比べると158,734千円の減益になりました。

(3) 9月末日現在の資本的収支（税抜き）（単位：千円）

区 分	3年	4年	5年	6年	7年
資本的収入 (a)	-	-	5,357	51,595	1,804
資本的支出 (b)	89,715	78,319	182,040	156,714	98,244
差引不足額 (a-b)	△ 89,715	△ 78,319	△ 176,683	△ 105,119	△ 96,440

資本的収入（税抜き）は、1,804千円で、前年同期に比べて49,791千円の減小です。これは主に、前年度において投資有価証券の満期に伴う収入があったことに対し、今年度はその収入が計上されなかったためです。

資本的支出（税抜き）は98,244千円で、前年同期に比べて58,470千円の減少です。これは主に、前年度において、前々年度からの配水管拡張改良費の繰越工事が多く計上されていたことに対し、今年度はその繰越工事が前年度ほど計上されなかったためです。

(4) 9月末日現在の収益的収支（税抜き）（単位：千円）

区 分	3年	4年	5年	6年	7年
流動資産（千円：a）	1,790,086	1,851,224	1,711,167	1,841,599	1,849,488
現金預金（千円：b）	1,864,262	1,668,728	1,513,887	1,591,015	1,372,476
流動負債（千円：c）	116,630	148,997	143,066	144,868	146,366
流動比率 (%: a/c × 100)	1,534.8	1,242.5	1,196.1	1,271.2	1,263.6
現金預金比率 (%: b/c × 100)	1,598.4	1,120.0	1,058.2	1,098.3	937.7

流動比率は1,263.8%、現金預金比率は937.7%で、短期の資金繰りに不安はありません。

3 病院事業（市立湖西病院）

(1) 4月から9月までの職員の時間外勤務の状況（単位：人）

区 分	3年	4年	5年	6年	7年
1か月間の時間外勤務が100時間以上の職員の延べ人数	1	-	-	-	-
1か月間の時間外勤務が80時間を超えた職員の延べ人数	2	2	-	1	-
1か月間の時間外勤務が45時間を超えた職員の延べ人数	16	26	8	4	2
2か月間、3か月間、4か月間、5か月間又は6か月間の時間外勤務の1か月当たりの平均時間が80時間を超えた職員の延べ人数	-	-	-	-	-

1か月間の時間外勤務が100時間以上の職員はいませんでした。80時間を超えた職員もいませんでした。45時間を超えた職員の延べ人数は2人で、前年度より2人減少しました。1か月間の時間外勤務が45時間を超えた職員の実人数は1人でした。

(2) 9月末日現在の収益的収支（税抜き）（単位：千円）

区 分	3年	4年	5年	6年	7年
病院事業収益 (a)	1,569,199	1,648,441	1,670,885	1,599,929	1,571,039
病院事業費用 (b)	1,353,957	1,343,481	1,380,856	1,450,398	1,465,729
純利益 (a-b)	215,242	304,960	290,029	149,531	105,310

病院事業収益（税抜き）は1,571,039千円で、前年同期と比べ28,890千円減収しました。

病院事業費用（税抜き）は1,465,729千円で、前年同期と比べ15,331千円増加しました。これは主に、人事院勧告による給与費の増加、原材料費の高騰による光熱費、燃料費の増加、各種業務委託料の増加が主な原因です。

損益では105,310千円の純利益を上げました。前年同期と比べると44,221千円の減益になりました。

(3) 9月末日現在の資本的収支（税抜き）（単位：千円）

区 分	3年	4年	5年	6年	7年
資本的収入 (a)	29,264	34,768	32,307	42,449	73,048
資本的支出 (b)	87,797	72,925	97,939	108,097	105,872
差引不足額 (a-b)	△ 58,533	△ 38,157	△ 65,632	△ 65,648	△ 32,824

資本的収入（税抜き）は、73,048千円で、前年同期に比べて30,599千円の増加です。これは主に、他会計負担金が増加したことによるものです。

資本的支出（税抜き）は105,872千円で、前年同期に比べて2,225千円の減少です。これは主に、建設改良費の固定資産購入費が減少したことによるものです。

(4) 9月末日現在の収益的収支（税抜き）（単位：千円）

区 分	3年	4年	5年	6年	7年
流動資産（千円：a）	884,923	1,290,336	1,575,727	1,527,184	1,444,716
現金預金（千円：b）	561,021	865,610	1,202,870	1,158,625	1,072,282
流動負債（千円：c）	209,978	202,939	262,033	249,268	245,112
流動比率 (%:a/c×100)	421.4	635.8	601.3	612.7	589.4
現金預金比率 (%:b/c×100)	267.2	426.5	459.1	464.8	437.5

流動比率は589.4%で、前年同期より23.3ポイント減少しました。現金預金比率は前年同期より27.3ポイント減少し437.5%です。両比率とも、理想値の条件を満たし、総じて短期の資金繰りは順調に見えます。